

新潟でも撮影

「夜間もやってる保育園」上映

館「シネ・ウインド」で公開される。映画では発達障害のある子どもへの療育プログラムの必要性にも触れており、同区の「エンジェル児童療育教室」も登場する。

共働きや一人親家庭の増加などで注目される「夜間保育園」を舞台にしたドキュメンタリー映画「夜間もやってる保育園」が9～22日の2週間、新潟市中央区の市民映画



ドキュメンタリー映画「夜間もやってる保育園」の一場面。㊦子どもと接する職員。㊧寝床につく子ども（夜間もやってる製作委員会提供）

働く親応援の現場追う

あす9日～22日シネ・ウインド

映画は、東京・新宿区にある24時間体制の保育園「エイビイシイ保育園」を中心に、懸命に働きながら子どもを育てる親たちと、それを支える夜間保育現場の思いを追っていく。「ただいま それぞれの居場所」(2010年)などで高齢者介護の現場を追ってきた大宮浩一監督がメガホンを握った。

北海道や沖縄などのさまざまな夜間保育園が登場する。集中力に欠ける子どもたちに対応するため、エイビイシイ保育園の片野清美園長らが、新潟のエンジェル児童療育教室に研修に訪れる場面もある。

厚生労働省の調べでは、16年4月1日時点で全国の認可夜間保育所の数は81カ所。24時間対



は、深夜まで働いたり、ダブルワークをしたりしないと生活が成り立たない親たちの現状も浮かび上がる。夜間に働く親への偏見の根強さも指摘される中、深夜までの受け入れを続けるエンジェル保育園の永嶋忍園長(58)は「シビアな条件で子育てをしている親は、限られた時間で精いっぱい愛情を子どもに注いでいる。映画を通して、さまざまな家族を支える夜間保育の現状と必要性を知ってほしい」と話す。

応の園はさらに珍しい。県内ではエンジェル児童療育教室に隣接する「エンジェル保育園」が唯一対応していたが、今年4月から24時間ではなく深夜0時半までの対応となった。映画に登場する家族の姿から下、0255(2433)55500。

9、10日は午前10時、11～15日は午前10時と午後7時35分、16～22日は午後2時5分と同4時30分から上映。1時間51分。問い合わせはシネ・ウインド